
11eyes罪と罰と購いの少女

リース

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

11eyes 罪と罰と購いの少女

【Nコード】

N7449K

【作者名】

リース

【あらすじ】

赤い夜に導かれた6人の少年と少女が一人の少年と出会う

物語の説明

この作品の主人公紅蓮 蒼牙は不幸にも神様のイタズラで殺されてしまう。

そして目が覚めると神様がアニメの世界に行かせる。と言って来た主人公紅蓮 蒼牙の行く世界は、赤い夜を舞台にした。「11eyes」という選ばれし6人が戦いぬく物語で、主人公紅蓮 蒼牙を加えた物語はどのように変わるのだろうか？

原作を知ってる方や知らない方でも楽しめるように頑張ります。

見てって下さい。

よろしく願います。

嫌な方はバックして下さい

オリキャラ紹介（前書き）

オリジナルのキャラ紹介です

オリキャラ紹介

紅蓮 蒼牙

18歳

186cm 69kg

説明

この物語の主人公で神様に殺されたという、悲しい現実を突き付けられた。普通の少年しかし神様が11eyesの世界に行かせてやる。というが余り11eyesの事は知らない

容姿

デビルメイクライ4のネロみたいな感じ

武器

神斬

神様から貰った刀

本来の力は封印されている。

(物語が進めば更新します)

ゼウスの腕輪

神様から貰った。腕輪、能力は自分の身体能力を格段に上げる。それと武器の収納場所になっている。

ベルセルク

神様から貰った腕輪に入っていた大剣、昔狂戦士が使っていた。

神様

???歳

???cm ???kg

説明

主人公を殺してしまった。神様

武器や力を与えて11eyesの世界に送った。

はじめまして、こんにちは、そして、さようなら

『ん？ここは・・・俺、普通に歩いていたらんだよな、そしたら急に真っ暗になって何だよ此処！？』

俺は今、未知の体験をしている！・・・っと自己紹介が遅れた。俺の名前は紅蓮 蒼牙、歩いてたら急に辺りが真っ暗になって気がついたら此処にいた。

『それにしても、誰かいないのか？・・・おっ？何だ光がこっちに来てる？』

その光は近づいて来て、俺の目の前で光だした！

『ッ！？・・・眩し！』

俺は眼をつぶった。

『・・・おさまったか・・・何だ？、今の・・・うわ！？』

眼をあけた。その時、俺はいきなり現れた天使みたいな奴にビクッリした。

『誰だよ、お前！心臓に悪いわ！』

「すみません、驚かすつもりはなかったのですが・・・」

俺は落ち着いて天使みたいな奴にきいてみた。

『で……誰？というか此処どこ？』『私の名前は……長いので……そうですね……貴方達が言う、神様です』

『ふうん、神様ねえ………はいっ！
？い、今なんて！』

「だから、貴方達が言う神様です」
「いやいやあり得ないだろ！？」

『ええ！？じゃあ、俺死んだのかよ！』

「………はい、私のせいで貴方を殺してしまった。」

『マジかよ………！じゃあ此処は何だよ！まさか、今から天国か地獄決めますってか！』

信じられねえ、最悪だ、短い命だったな………ん？………でも………今コイツ私のせいって言ったよな
『おい、私のせいであってどういう事だよ』

「はい………実は貴方が死ぬ時ではまだなかったのですが………どうやら、不手際があつて貴方が、死んでしまったという訳です。」
「なんじゃそりゃ！」

『じゃあ、此処は何だよ！』

俺はこの場所を聞いてみた。

「ここはですね．．．．．新しい世界に行ってもらう場所です。」
新しい世界！？

『そんなのがあるのか！？』

「はい．．．．．貴方が行く先は決まっています。」11eyes
s」というアニメの世界です。」

『イ．．．．．レ．．．．．ブン．．．．．なんだって？』

「11eyesです。そして貴方にはこれからそこで暮らしていた
できます。」

『．．．．．なんだって！？』

「はい、貴方には今から11eyesの世界の知識を頭に送ります。」
「

うつ．．．．．！頭の中に流れ込んでくる！

．．．．．

．．．．．。

『なるほどね、まあ一応分かった赤い夜やら戦いやらでも俺は武器
ないぜ』

それはそうだ。武器がなきゃ戦えない、いつもは喧嘩とかは拳で勝
てる、けどそれとこれとは話が違う。「それは、安心して下さい。
私が貴方に差し上げます。」

『マジで！、何くれるんだ！』

期待する。俺

「そうですね、私の武器と私の友人の腕輪をあげましょう。」

刀と腕輪！？

『良いのか？お前の刀と友達の腕輪なんだろう？』

「いいですよ・・・使う事はあまりありませんし腕輪も私には必要ありません。受け取って下さい」

『ありがとうな、大切に使うよ、この刀と腕輪の名前はなんなんだ？』

「それは刀は神斬といいます。腕輪はゼウスの腕輪です。私の友人ゼウスから貰った腕輪です。腕輪は武器を収納できるように工夫しました。中にはもう一つ武器があります。」

『なるほど、もう一つ武器ってなにどうやって出すんだ。？』

「名前を呼ぶんですよ。名前はベルセルクです。言ってみてください。」

『よし・・・・・・来い！ベルセルク！』

名前を言った途端、腕輪が光だした。

『おお・・・デカ！俺これ持てるの？』

俺の背よりデカイ大剣

「大丈夫ですよ、腕輪の効果が効いてますよ、持ってみてください」
そういえば身体が軽い

『分かった………よしよ！………あれ………？あま
り重くない………？』

随分と見た目とは違い軽い大剣

「はい、その腕輪の効果です。所有者は身体能力を最大限引きだせるよいになります。」

『それは便利だな通りで身体が軽いと思った。そうだ！一回素振り
していいか？』

「ええ別に構いませんよ」

『よし！始めるか！』

まずは一振りベルセルクを振る

『ハア！』

ブン！ブン！と言う音が鳴る

やっぱり軽いな！それに使いこなせる！

『よし！、次は来い！神斬！』

俺はベルセルクを戻し神斬を出した。

『セイ!』

ヒュン!ヒュン!と音が鳴り

これも使いこなせる!

『これでいいかな?』

「中々ですね、初めてなのに良く使いこなせている。」

『そうかな?腕輪のおかげでもあるからな』

「そうでもありませんよ。身体を鍛えているからそこまで動けるんですよ。」

『そうか?』

.....。

「そろそろいいですか?」

『ああいつでも良いぜ』

覚悟は決めた。行くぜ、新しい世界に!

「さようなら.....また会う日まで.....」

『おう!じゃあな!』

俺は神様が開いてくれた。扉の中に入って行った。

はじめまして、こんにちは、そして、さようなら（後書き）

プロローグ終了

いやこれから蒼牙はどうなるのか楽しみですね！
次をお楽しみ下さい！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7449k/>

11eyes罪と罰と購いの少女

2010年12月12日23時17分発行